

～フィリピン（比国） ボランティア・デンタルミッション～

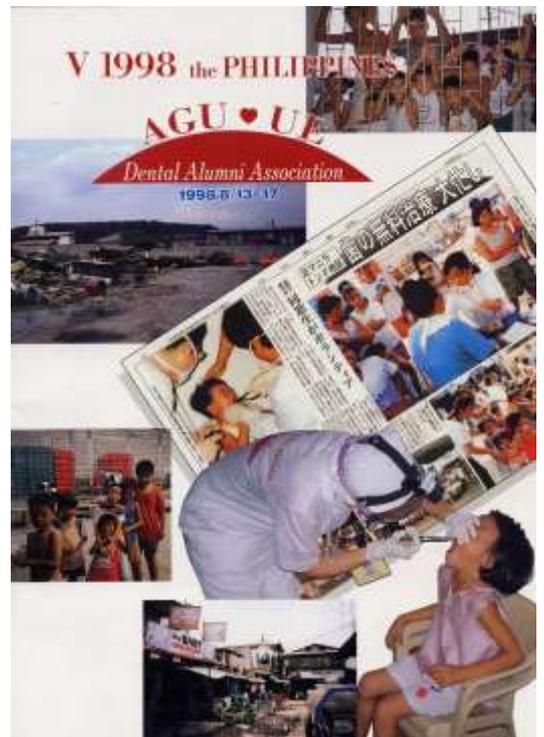
ADUDAA-V-フィリピン団長:9 回生亀山正道

比国の口腔内は WHO の DMTF では 4 以上、世界でむし歯の多い上位国で、貧富の差が大きい国です。1990 年頃から学院口腔外科教授、栗田賢一現学部長は、比国イースト (UE) 大学と姉妹提携、以来 20 数名の研修生を学院招聘し交流を進めました。国際学术交流事業を軌道に乗せると、他に国際交流の貢献を検討し、現地を見を重ね、ボランティアの診療活動が採択されました。

同窓会が主となり、地元 UE 大学との共同事業、1998 年から比国貧困区（通称スモーキーマウンテン：ごみの山が自然発火し煙上する地）で、5 年を目処に無料診療の企画、実行されました。痛みの苦痛から解放される救済を求め、早朝から 200 人以上も集まる長蛇の列をなす患者は、明日の食物も儘ならない人達でした。若年者の抜歯が多く日本では全く考えられない状況でした。時に 20 本以上のむし歯は、全て抜いてほしいと要望する患者もありました。一人平均 5.6 本は抜歯対象でした。タオルで汗を拭い、団扇で仰ぎながら、道具が間に合わず知恵を絞り他で代用し、野戦病院さながらの診療の連続でした。子ども達の笑顔は熱帯の暑さを忘れさせてくれました。ちょうど 5 年経過時、小出忠孝学院長が現地視察し講演を戴きました。また別の機会に病理の亀山洋一郎元教授、口腔治療中村洋元教授にも UE 大学で口演を頂きました。5 年後も活動に参加者から強い希望があり事業を継続する事になりました。

むし歯の減少を、ケソン市の児童数 6,000 人を抱える 2 小学校に、口腔衛生講座の加藤一夫准教授や衛生士さんが、数年にわたりフッ化物洗口、衛生活動に奮闘中です。

約 10 年までは診療器具や抗菌剤や鎮痛剤の薬等持ち込みが多く、入国時に税関で関税を請求され、持ち込みの経費以外の支払いを余儀なくされました。正規には入国持ち物は法務省・外務省・領事館経由で申請し許可が必要であることで、現地、在住の 30 回生成田由美、留学生 Niel 先生宅に保管、医療品やレントゲンの持ち込み、テンポラリーライセンスの取得方法などを改善、比国の国際情勢変化、姉妹提携の UE 大学とコンタクトを密にとりつつ準備を進めています。



参加者は、機械器具の不自由を、創意工夫で対処応用できる場として活躍戴ける人が多く、自己啓発の場として活気・情熱がヒートアップします。

2010年時に、「保健文化賞受賞・天皇陛下拝謁」の栄誉を賜りました。文化、食、宗教、保健体制、遅々と進まない底辺の医療、貧富の差、保険制度がない自費での診療、隣国へ出稼ぎなど日本との違いでジレンマも出てきます。大過なく約20年継続の海外ボランティア診療、医療の原点回帰を考えさせられる貴重な体験であることを実感しています。今後、国際的な活動の場を広げ、多感な若い先生方に他国での診療実体験の機会を、将来の世界の歯科界を支えてくれるものと信じてやみません。その意味では研修機会の一環のプランは如何なものでしょうか？

元同窓会長の井上峰雄、成田洋之両先生も忙しい中同伴、5回生の稲本浩先生の抜歯指導、6回生の森栄先生元団長のきめ細かい采配、吉成伸夫教授、稲垣幸司教授担当の衛生士さんや学生さんの口腔衛生クリーニングや啓発指導、7回生川西旭彦先生の支援、毎年19回生阿瀬井宏成先生の歯ブラシ寄付、他の同窓生からもご協力、御声援を戴き継続中の活動です。また朝日レントゲン、GC、モリタ、ビーブランド、アステラス製薬K.K、昭和薬品化工K.K.の薬剤関係からも御協力戴きました。団長は、昨年より29回生小田邦博先生にバトンを渡しました。心より厚くお礼を述べ感謝致します。今後とも暖かく支援をお願いします。

1500+50×2 (写真)

(1500字)